

日本独文学会第70回総会
春季研究発表会

2016年5月28日(土)・29日(日)
第1日 午前10時より
第2日 午前10時より

会場 獨協大学

☎340-0042 埼玉県草加市学園町1番1号
Tel. : 048-946-1924 (ドイツ語学科共同研究室)
e-mail: tagung2016dokkyo@jgg.jp

参加費 : 1500円 (学生, 常勤職のない会員は1000円)

日本独文学会

☎170-0005 東京都豊島区南大塚3-34-6 南大塚エースビル603
Tel./Fax 03 - 5950 - 1147
メールフォーム : <http://www.jgg.jp/mailform/buero/>

プログラム

第1日 5月28日(土)

開会の挨拶 (10:00~10:05)

A会場(207教室)

山路 朝彦

総会 (10:05~11:30)

A会場(207教室)

- | | |
|---------------------|--------|
| 1. 会長挨拶 | 大宮 勘一郎 |
| 2. 議長囑任 | |
| 3. 庶務報告 | 室井 禎之 |
| 4. 渉外委員会報告 | 坂本 貴志 |
| 5. 会計報告 | 岡本 順治 |
| 6. 編集委員会報告 | 井出 万秀 |
| 7. 企画報告 | 齊藤 涉 |
| 8. 広報委員会報告 | 生駒 美喜 |
| 9. データベース委員会報告 | 藤縄 康弘 |
| 10. 文化ゼミナール委員会報告 | 増本 浩子 |
| 11. 語学ゼミナール委員会報告 | 森 芳樹 |
| 12. 教授法ゼミナール委員会報告 | 星井 牧子 |
| 13. ドイツ語教員養成・研修講座報告 | 保阪 良子 |
| 14. 研究叢書報告 | 山本 浩司 |
| 15. ドイツ語教育部会報告 | 吉満 たか子 |
| 16. 支部報告 | |

- 議事
1. 2015年度決算書および2016年度予算案について
 2. 支部選出理事の囑任について
 3. 監事の囑任について
 4. その他

会員意見開陳

日本独文学会賞授賞式 (11:40~12:10)

A会場 (207教室)

ドイツ語学文学振興会賞授賞式・総会 (12:15~13:15)

A会場 (207教室)

ドイツ語教育部会総会・講演会 (12:40~14:20)

B会場 (206教室)

総会 (12:40~13:10)

講演 (13:20~14:20)

森 朋子 (関西大学教育推進部准教授)

「アクティブラーニングとは何か ―深い学びを引き出すためのデザイナー―

シンポジウム I (14:30~17:30)

A会場 (207教室)

意味的構造的に基づく文法構造をめぐって

Satzstruktur aufgrund der semantischen Struktur

司会：森 芳樹

1. 英独語との比較による日本語の非制限的關係節の統語構造と意味論
橋本 将
2. ドイツ語非制限關係節の下位分類と日本語連体節との対照
城本 春佳
3. 経験者・所有者役割の具現
—英語の have 構文とドイツ語の与格構文の比較—
森 由美子・吉田 光演
4. ドイツ語と日本語の感嘆文における意味的構造的性
伊藤 克将
5. „scheinen“ / 「ようだ」の証拠性とモダリティー —形式意味論の観点から
岡野 伸哉
6. ドイツ語における付加語的形容詞の語順の意味的構造的性
森 芳樹

口頭発表：文学 I (14:30～17:05)

B 会場 (206 教室)

司会：山路 朝彦・渡部 重美

1. 『パルチヴァール』における騎士の徳の問題化 松原 文
2. デア・シュトリッカーの『カール大帝』に見られるポピュリズム 田中 一嘉
3. 詩的「想像力」と政治的「共和制」
一ボードマーとクロプシュトックの分岐点 今村 武
4. 音響学史から見たヘルダーリンのピンダロス断篇 "Vom Delphin"
縄田 雄二

口頭発表：文学 II (14:30～17:05)

C 会場 (408 教室)

司会：宍戸 節太郎・Matthias Wittig

1. ウーヴェ・ヨーンゾンの詩学における／をめぐる「否定神学」的
修辞について 金 志成
2. 反転しうる「故郷への想い」 Heimat-Gefühl
一ウーヴェ・ヨーンゾン『記念の日々』における「故郷」Heimat と
「異郷」Fremde について 西尾 悠子
3. Wie ein Krimi ein Bestseller wird: Nele Neuhaus und ihre Kriminalromane
Oliver Mayer
4. 肌に刻み込まれる文字一多和田葉子『文字移植』における翻訳 林 英哉

口頭発表：ドイツ語教育 (14:30～17:05)

D 会場 (409 教室)

司会：柿沼 義孝・Marco Raindl

1. Lern(er)motivation durch Smartphone-Einsatz:
Sinnvolle Anwendung von QR-Codes im Fremdsprachenunterricht
Sven Körber-Abe
2. Dreidimensionale (3D) Visualisierungen von Texten für den Sprachunterricht
Markus Rude
3. Sprachgebrauch und Spracherwerb in aufgaben-orientierter Partnerarbeit
Axel Harting

4. アイデンティティと学習言語の関係性

—人生の「転機」はドイツ語学習者にどう影響するか—

甲藤 史郎

ブース発表 I (14:00~15:30)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

E 会場(407 教室)

WEB 対応学習支援システム WebOCMnext およびダイナミック

教材のデモンストレーション

細谷 行輝・杉浦 謙介・阿部 一哉

ブース発表 II (14:00~15:30)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

F 会場(406 教室)

フランス・アルザスにおける複言語・複文化能力養成のための

ドイツ語 (アルザス語) 教育

小川 敦・境 一三・治山 純子

ブース発表 III (16:00~17:30)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

E 会場(407 教室)

Transkulturelle deutsche Konversationskurse unter Verwendung
traditioneller japanischer Spiele

Asuka Yamazaki

ブース発表 IV (16:00~17:30)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

H 会場(404 教室)

(「大学ドイツ語入試問題展示会」会場で行います)

ドイツ語教育部会・大学入試問題検討委員会企画：「大学入試と外国語教育」

司会：清野 智昭，新倉 真矢子

発表 1：平高 史也・藁谷 郁美・白井 宏美

発表 2：藤田 保

ポスター発表 (13:00～14:30)

(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

G 会場 (2 階セミナースペース)

Phonetische Bewusstheit und Bewusstmachung
im Deutsch-als-Fremdsprache-Unterricht.

Ein didaktisch-methodisches Konzept

David Fujisawa

だじゃれで覚えるドイツ語文法：イメージと笑いの機能を利用して

山崎 明日香

PASCH 校生によるドイツ語新聞 *JAPAN HEUTE* の制作

—13 号発行に至るまでの 4 年間の試み

柴田 育子・Katrin Endres・能登 慶和

Sprachlernspiele - ein Unterrichtsmittel mit hohem pädagogischem

Potenzial - „Warum wir spielen“

Marco Schulze

ドイツ語教育部会

「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表 (13:00～17:30)

H 会場 (404 教室)

懇 親 会 (18:00～20:00)

会場：学生食堂 (35 周年記念館 2 階)

会費：6,000 円 (学生・常勤職のない会員は 4,000 円)

第 2 日 5 月 29 日 (日)

シンポジウム II (10:00~13:00)

A 会場 (207 教室)

Autofiktion heute
– Zur literarischen Konstitution des autobiographischen Subjekts
in der deutschen Gegenwartsliteratur

Moderator: Leopold Schlöndorff

1. Dekonstruktion und Autofiktion. Über Paul de Mans Theorie zur Autobiographie
Kentaro Kawashima
2. „Autobiographie – *Ich war nie ein guter Genosse*“ – Zum Wechselspiel von
Faktizität und Authentizität in der Autobiographie „Tumult“ (2014) von
Hans Magnus Enzensberger Jin Yang
3. *Abfall für alle*, Rainald Goetz:
Mechanismen eines (s)ich performativ generierenden *Weltkunstwerks*
Masanori Manabe
4. „Von Geschichte hatte sie keine Ahnung, alles löste sich in Geschichten auf“.
Zu Felicitas Hoppes autofiktionalem Roman *Hoppe* Hiroshi Yamamoto
5. „Und wer war ich noch?“
– Funktionen der Autofiktionalisierung im literarischen Diskurs
Leopold Schlöndorff

口頭発表：文学 III (10:00~11:55)

B 会場 (206 教室)

司会：高橋 輝暁・山本 淳

1. 18-19 世紀の庭園史の変遷と文学作品に描かれた庭園との関係
からの *Natur* と *Kunst* の考察 — ゲーテ『親和力』, ルソー
『新エロイーズ』を例に 伊東 麻衣
2. 末期の視力 — E. T. A. ホフマン『従兄の隅窓』 — 清水 恒志
3. シュテファン・ツヴァイクの短編
『ある職業を思いがけず知ったこと』に見る大都市と人間 杉山 有紀子

口頭発表：文学 IV／文化・社会（10:00～12:35）

C 会場（408 教室）

司会：古田 善文・工藤 達也

1. 保守革命の「文書」共同体について
—ホフマンスタールと E・ユンガーにおける「探究者」と「大衆」
の統一に対するまなざしを手がかりに 稲葉 瑛志
2. 現代における古典の上演傾向
—シラーの『たくらみと恋』を例として 丸山 達也
3. ドイツにおけるヴァンパイア受容
—1820 年代の仏独演劇・オペラ台本を中心に 森口 大地
4. Das Konzept der Theaterschule in den deutschsprachigen Ländern
in der ersten Hälfte des 19. Jahrhunderts Asuka Yamazaki

口頭発表：語学（10:00～12:35）

D 会場（409 教室）

司会：Angelika Werner・黒子 葉子

1. スイスドイツ語における存在表現の日常的使用 大喜 祐太
2. 類縁形式との比較を通して見たドイツ語未来形
werden＋不定詞の歴史的発展 嶋崎 啓
3. 不変化詞動詞における「余剰句」の生起とその解釈について 和田 資康
4. 嗜好述語, 接続法 I 式, 直示表現 高 裕輔

ブース発表 V（11:30～13:00）

（ブース発表は途中での出入り自由です）

E 会場（407 教室）

Inhaltsorientierter Unterricht ohne kurstragendes Lehrwerk im Anfängerunterricht.
Eine (selbst-) kritische und selbstreflexive Betrachtung durch die beteiligten
muttersprachlichen Deutschlehrer

Holger Schütterle, Davide Orlando

ポスター発表（10:00～13:00）

（ポスターは期間中を通じて掲出されています）

G会場（2階セミナースペース）

ドイツ語教育部会

「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表（10:00～12:00）

H会場（404教室）

閉会の挨拶（13:05～13:10）

A会場（207教室）

柿沼 義孝

研究発表会期間中、上記のプログラムに加えて、書店・出版社等による書籍展示が行われます。（書籍展示会場：306教室）